

令和7年度学校評価 中間報告（各部・分掌の取組）

重点目標

授業づくり

- ・ よりよい教育課程の編成を進め、各教科のねらいを踏まえた授業づくりを行う。
- ・ 障害特性の理解を深め、卒業後の「いきジョイの実現」を見据えた小学部・中学部・高等部とつながりのある指導・支援を行う。
- ・ 児童生徒にとって分かりやすい環境設定やポジティブな支援を行う。

安全で安心できる環境づくり

- ・ お互いの人権を尊重し合える環境づくりを進める。
- ・ 災害等に備える視点と突発的な事態に対応する視点で一人一人が危機管理意識をもち、組織的な対応力を高める。
- ・ 積極的な情報発信・情報共有を進め、保護者、関係機関、地域との連携を深める。

働き方の改善

- ・ 職員一人一人の生活や働き方を認め、お互いに理解し支え合う職場づくりを進める。
- ・ 児童生徒及び職員の「いきジョイの実現」に向けて、業務の更なる効率化を図り、働き方の改善を加速化する。

各部の取組

項目	具体的方策	取組経過と今後の課題
I 授業づくり	<小学部> 小学部6年間で学ぶべきことが学べる教育課程を目指し、年間指導計画等を見直し、授業実践を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各教科等を合わせた指導（日常生活の指導、生活単元学習）の中で、教科「生活」の内容を学ぶことができているのか学年会で確認した。 ・ 生活単元学習の中で教科を意識して新たな単元を計画し実施している学年もある。 ・ 確認・検討したことを次年度以降の年間指導計画のモデル案に反映できるように部で検討していく。 ・ 4校時に設定している日常生活の指導の実施状況を把握し、有効に時間を活用できているのか学年で確認した。今後改善を図る。
	<中学部> 「中学部として押さえる指導のポイント」を検討・共通理解を図る。また、その実践を通して、中学部の教育課程や日課表の課題を明確化し、改善に向けて意見をまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和6年度に作成した「中学部として押さえる指導のポイント」に沿って、学習内容を検討し、実践している。実践しながら検討が必要な点について学年内で意見を集約し、部全体で周知している。変更や修正したものを共通理解しながら日々の指導で実践して検証し、「中学部として押さえる指導のポイント」の完成を目指している。 ・ 実践を通して現在の教育課程や日課表が中学部の目指す生徒の姿を実現するうえで最適なものであるか、改善すべき点があるか部職員の意見を集め、議論を深めている。課題に対して解決策を検討しつつ、新たな教育課程、日課表についての検討も視野に入れている。

I 授業づくり	<p><高等部> よりよい学びにつながるよう、教育課程の改善を図り、令和8年度以降に向けた教育課程の再編成を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度の教育課程の反省をもとに3つの改善案を作成し、各学年から意見を集めた。それぞれに、よい点、改善が必要な点が挙げられた。 ・今後、意見をもとに再度検討をしていく。
	<p><施設内学級> 個々の特性を理解し、活動内容の充実を図り、個に合わせた授業を実践する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・刺激を体感することで快・不快の気持ちの表出を促すようにした。お茶の葉の香りや氷の冷たい感触に反応する様子が見られた。また、反応が見られなくとも感触などを受容している様子ときもあった。 ・1対1対応ではないため、自立活動では児童生徒のペアを曜日によって組み替えて指導体制が偏らないようにした。児童の覚醒時間帯にも配慮し、指導の効果が得られるようにした。 ・引き続き、さまざまな刺激の体感や教師と一緒にを行う活動経験の中で、快・不快の気持ちの表出や期待感・達成感などを感じられるように授業づくりをしていく。
	<p><教務部> 個別の指導計画の有効な活用方法を再度確認し、教職員のカリキュラム・マネジメントの意識向上を進め、授業づくりが行えるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業の中で参加しやすいように他の研修が開催されている日の午後に3日間「個別の指導計画書き方相談会」を設定した。参加者は合計20名であった。 ・授業実践をしていく上で、どのように各教科の資質・能力を踏まえた目標を設定して児童生徒の学びを計画し、その評価をしていくのか考えていく一助になったのではないかと考える。 ・参加者は4月から新たに本校に務めている教員が90%ということもあり、困り感というよりは個別の指導計画をどのように書けばよいのか不安に思っている教員が多いように感じた。どのような視点で個別の指導計画の作成を進めていくのかを聞いて前向きに取り組め、今後も気軽に相談しようと思うきっかけとなる場になったのではないと思う。最終的には、職員同士で児童生徒の学習の取組や評価について話し合ったり相談しあったりすることができる環境を整えていきたい。
	<p><研修部> 教員が部間のつながりを意識しながら、児童生徒一人一人の指導や支援について考え、実践できるようにサポートする。 いきジョイ（校内研究）に全校で取り組み、「みよしっこの障害特性」「根拠と効果のある指導・支援」を学び、専門性の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・部を越えて、互いに気軽に授業を見合う機会として、「部を越えた自由な授業参観」ができる期間を設定する（10月、2月）。 ・外部講師による研修会を実施した。研修を通して、児童生徒の障害の理解を深めるとともに、一人一人の指導や支援について考える機会となった。 ・児童生徒の障害の特性を改めて理解し、それぞれの特性に応じた指導・支援について専門的な知識を身に付け、根拠と効果のある指導力・支援力を高めるためのワークショップを8回計画し、実施している。
	<p><保健体育部> 児童生徒の健康課題に対し、適切な支援を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣の改善や健康管理に役立てるため、全校児童生徒の測定した体重をもとに肥満度を算出し、その結果を担任へ報告した。希望のあった児童生徒に対して、個別に体重の変化を記録しながら継続的に体重の管理を行っている。今後は必要に応じて運動習慣や食生活の改善につながるような管理計画を作成し、家庭と連携しながら支援していく予定である。

	<p><自立活動部> 自立活動に関する理解を深めることで、児童生徒への指導・支援の向上につなげる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回選択研修会では、外部専門家による「児童生徒のウェルビーイングを実現する自立活動の学習」についての研修会を実施した。ウェルビーイングの視点を生かした自立活動についての理解を深めることができた。 ・自立活動だよりや自立活動相談報告では、児童生徒にとって分かりやすい環境設定の大切さを伝えたり、一つ一つの相談事例を紹介したりして、日々の指導・支援の参考になる情報を提供することができた。 ・引き続き、自立活動だよりや自立活動相談報告などを通して、より具体的な指導・支援方法を紹介していく。
	<p><教育支援部> 関係機関との連携を図ることで、職員一人一人が、障害特性を基礎から学んで理解したり、多様な支援方法に関する知識を得たりして児童生徒への支援に生かす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラー、発達センターとの相談会、豊田市強度行動障がい専門支援員派遣事業の個別支援及び全体研修を活用した。全体研修では、二次的な障害を引き起こさないためにも、障害特性の理解や一人一人の支援にチームで取り組むことが大切であることを学ぶことができた。 ・今後は、個別の相談を通じた学びを全体に発信することで、学校全体の力にしていきたい。
2 安全で安心できる環境づくり	<p><小学部> 児童が安心して笑顔で過ごし、成長できるように、主体的に行動ができる環境をつくったり、成長につながるような言葉がけや関わり方を考えて実践したりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導・支援に関わる全ての職員が温かな言葉がけと柔らかな支援を心掛けることができるように「分かりやすく」「具体的に」情報発信していく。 ・各学級において、視覚支援や構造化を踏まえて、児童が分かって動ける環境づくりを行っている。効果的なチーム・ティーチングも考えながら、進めていく。 ・学年会や部会で、児童の人権を尊重し成長につながる適切な言葉がけや関わり方について情報提供したり、振り返ったりする機会を今後設定していく。
	<p><中学部> 生徒の支援体制を整え、情報共有をしながら指導・支援にあたる。また、生徒の健康や安全に対する意識を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導・支援が難しい生徒については、本人の思いや保護者の願いを丁寧に聞き取り対応している。部や学年で情報を共有し課題や問題の解決に向けてアイデアを出し合い、教育支援部や外部機関と連携して対応している。問題の解決に至るケースばかりではないが、引き続き支援体制を整えて対応していく。 ・授業や行事に関連付けて、交通安全や水辺の安全についての学習に取り組んだ。また総合的な学習の時間の学習では「安全」や「防災」をテーマに設定し、校内の危険箇所や非常口、消火栓の場所を探すウォークラリーを行った。「新聞紙スリッパ」を作成して、実際に履いて歩くなどの学習を行っている。生徒自身が安全や健康に対する意識や行動力を高められるように引き続き取り組んでいく。
	<p><高等部> 生徒が安心して学校や地域で過ごせるよう、関係機関との連携を深め速やかな対応に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の変化に早く気付けるよう、学年会や部会を通して情報交換を行ったり、学年会や部会を通して職員への周知を図ったりしている。 ・関係機関や教育支援部との連携が必要な場合は、密に連絡を取り合い情報を共有している。 ・今後も生徒の変化に気付けるよう、意識を高め生徒の様子をよく見ていく。
	<p><教育情報部> 学校の取組を発信するなど、ホームページの充実を図り、安心できる学校のイメージを高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ内のコンテンツのレイアウトについて、担当者会議を開き、見やすい配置の候補を作成し、検討している。追加コンテンツについても検討を進めている。 ・研修の応募告知など、周知を目的とした内容を掲載し、他の校務の支援を続けている。

2 安全で安心できる環境づくり	<p><生活指導部> 訓練や研修を実施し、災害や突発的な出来事の時、どう判断し、どう行動すべきか、個々の対応力と学校組織としての対応力を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで教職員避難訓練、地震避難訓練、不審者対応避難訓練を実施した。現職研修「防犯について」では、警察官にも参加してもらい、より実際に近い形で不審者対応避難訓練を実施することができた。 ・訓練の反省も非常に多くの職員から寄せられており、職員の積極的な参加と、意識の高さを確認することができた。 ・今後も各種訓練を計画しており、実践していく中でこれまでの反省と課題を活かし、より本校にあった対応のあり方を形にしていきたい。
	<p><進路指導部> 教員や保護者に向けて、進路に関する発達段階に応じた情報を提供する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学部4年生から高等部2年生を対象に行っている「進路に関する調査」では、保護者からの進路に関する質問に一人一人個別に回答をした。今回の質問と回答を「進路だより」に載せ、より多くの保護者に情報提供をしたいと考えている。 ・小学部6年生対象の「進路説明会」では、中学部の各種取組について説明したり、作業学習などの参観を行ったりした。小学部卒業後の生活をイメージする良い機会になった。 ・中学部3年生対象の「進路説明会」では、卒業後の進路先の一つとして、本校高等部についての説明や作業学習等の見学を実施した。また、中学部全学年対象の「第一回情報連絡会」では、本校生徒の進路状況や地域の福祉サービスの現状について説明をした。事業所のパンフレットを取り寄せる保護者が増えてきたことから、進路に対する意識が高まったように感じる。 ・高等部では、教員向け選択研修を実施し、相談支援専門員から豊田市とみよし市の「福祉の現状や課題」などを話していただいた。また、進路指導部から「キャリア教育のおさえ」や「福祉サービスの基本的な知識」などの説明を行った。保護者向けには、eメッセージを利用し、事業所の紹介だけでなく、卒業後の生活に関するセミナーや事業所のイベントなどの紹介も細かく行うようにしている。
	<p><保健体育部> 安全で安心して学校生活を送れる環境づくりを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度から保健室で実施された外科処置の記録を集約し、けがの具体的な内容や発生件数について分析を行った。その結果、どのような種類のけがが多いのか、また年間を通してどの程度の頻度で発生しているのかを把握することができた。さらに、今年度については、校内で発生したけがや事故について、その発生場所を分類、集計し、事故が起りやすい場所や時間帯を特定する作業を進めている。今後は事故の発生件数の多い場所や注意が必要な活動場면을周知するとともに、掲示物や看板等の設置を行い、けがや事故防止に向けた啓発活動を行っていく。合わせて校内巡視を行い、危険箇所や破損箇所を早期に発見し、事故を未然に防げるように取り組んでいく。
	<p><教育支援部> ニーズに応じたサポートや情報発信を進め、地域との共同体制を構築したり、地域の学校内でのサポート力向上の支援を行ったりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・県の相談事業と本校主催の「こども発達相談」を通して、地域の小・中学校の相談活動や地域の教員を招いての研修会を実施した。研修会では、「愛着障害」の講義の他、冰山モデルや応用行動分析のワークを通して、子ども理解、支援力の向上につながる研修を行った。 ・今後は、地域の学校のサポート力向上につながるように、助言内容等を校務で検討する等の工夫をしていきたい。

3 働き方の改革	<p><総務部> 職員室内の整理整頓を行い、業務の効率化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 職員室内のロッカー、掲示物等の整理整頓しているところである。印刷室、冷蔵庫など、職員が共同で使用する物や棚の上にある物を片付けた。
	<p><教育情報部> ICTを活用して業務の省力化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 夏季休業中に教職員向けのICT講習会を行い、3日間で120名が参加した。実践をイメージした、ICTの様々な活用法について学ぶことができた。 業務に役立つアイデアをFormsで募集する方法を検討中。 生成AIの業務への活用を積極的に行い、省力化の可能性を探っている。イラストの作成時間を短縮することができることが分かった。
	<p><自立活動部> 校務内の業務の効率化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 年度初めに、校務内の主な業務について、各々が重点的に取り組む課題を提示し、業務に見通しをもって円滑に進められるようにした。 今後は、Teams等を活用して校務全体や複数の担当者間で互いに業務の依頼や報告をしたり、柔軟に業務を分担し合ったりできるようにしていきたい。
<p>学校関係者評価を実施する主な評価項目</p>		<ul style="list-style-type: none"> よりよい教育課程の編成を進め、分かりやすい環境設定やポジティブな支援を行う。 お互いの人権を尊重しつつ、一人一人が自分事として考えた安全で安心な環境づくりと支援を行う。 支え合う職場づくりを進め、職員の働き方の改善を加速化する。